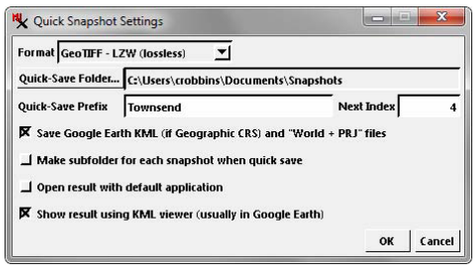
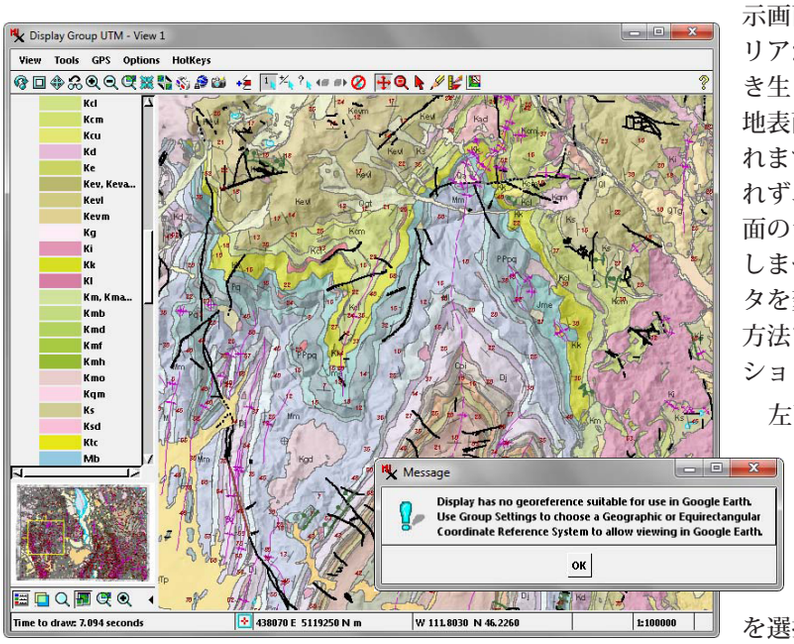
Google Earth 用のクイックスナップショット

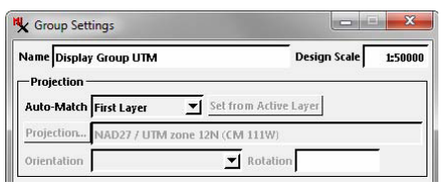


TNTmips、TNTedit、TNTview の表示ウィンドウにある [クイックスナップショット (Quick Snapshot)] ボタン を使うと、画面のスナップショットを作成して Google Earth で簡単に表示することが出来ます。〈クイックスナップショットの設定 (Quick Snapshot Settings) 〉ウィンドウで、GeoTIFF、TIFF、JPEG、PNG から 1 つフォーマットを選んで、[(地理座標系であれば)Google Earth 用の KML ファイルと “World + PRJ” ファイルを保存 (Save Google Earth KML (if Geographic CRS) and “World + PRJ” files))] トグルをオンにします (右図及びテクニカルガイド「空間データ表示：表示画面のクイックスナップショット (Quick Snapshot of View Contents)」参照)。Google Earth にスナップショットを自動で表示するには、〈クイックスナップショットの設定〉で [KML ビューワ (通常 Google Earth) を使って結果を表示する (Show result using KML viewer (usually in Google Earth))] オプションをオンにします。もしくは、指定したスナップショットフォルダに入って、KML ファイルの上でダブルクリックすることで、スナップショットしたエリアにズームした Google Earth を開くことが出来ます。

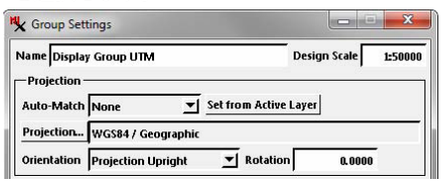
KML ファイルは WGS84 測地系を使った緯度経度の座標を必要とします。表示画面で WGS84/ ジオグラフィック座標参照系 (CRS) を使っている場合、他の補足的なジオリファレンスファイルと一緒に KML ファイルが作成されます。表示画面で他の座標参照系を使っていても、表示のエリアが小さく、その範囲が緯度経度に変換されたとき生じるゆがみの誤差が 1 スクリーンピクセル分の地表面積より小さい場合は、KML ファイルが作成されます。もしそうでない場合、KML ファイルは作られず、左下のようなメッセージウィンドウに表示画面のジオリファレンスは Google Earth での使用に適しませんという警告が表示されます。表示中のデータを変更する必要はありませんが、以下に説明する方法で表示用の座標参照系を変更し、再度スナップショット操作をして下さい。

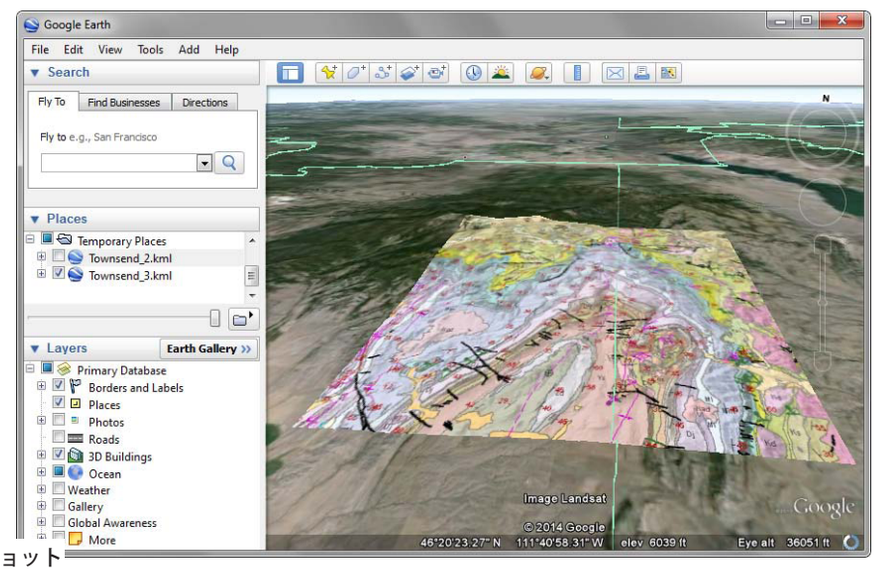


左下の図のように〈グループ設定〉ウィンドウを使って、単一グループの表示画面の座標参照系を変更します。[投影法 (Projection)] 設定の中の [自動マッチング (Auto-Match)] メニューで [なし (None)] を選択してから、[投影法] ボタンを押して [WGS84 / ジオグラフィック] を選択します。レイアウトの場合、一番下のグループに対してこの変更を行います。



KML への変換に適合するようにグループの座標参照系を変更します。〈グループ設定〉ウィンドウを開いて [自動マッチング] メニューで [なし] を選択し、[投影法] ボタンを押して [WGS84 / ジオグラフィック] を選択します。





グーグルアースに表示した画面のスナップショット

(翻訳) 株式会社 オープン GIS　東京都墨田区吾妻橋 1-19-14 紀伊国屋ビル 1F
Tel: (03)3623-2851　Fax: (03)3623-3025　E-mail: info@opengis.co.jp